

中学校区におけるめざす子ども像  
 ・正義のひと 善悪の判断ができる  
 ・行動のひと 自ら進んで動ける  
 ・勇気のひと チャレンジできる  
 ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる

令和8年度 重点目標  
**多様なかかわりを通して、深く学ぶ**  
 ～それぞれの“もちあじ”をいかし、つながる、つなげる～

**確かな学びの現状**  
 R5年度より、「問いを持つ力」「情報を集める力」「整理・分析する力」「まとめ・表現する力」の4つの情報活用能力の育成をめざした授業づくりに取り組んできた。全教職員が一人一回の公開授業を行い、授業改善を進めてきた。R7年度は、各教科における情報の特性を踏まえ、児童が場面に応じて情報活用能力を発揮できるよう、授業者が4つの情報活用能力を意識した授業実践を行った。R8年度は、研修主題を「9年間をつながり育てる思いやり～自己を見つめ、他者とのかかわりを深めること」の育成～と設定し、これまで3年間培ってきた情報活用能力の視点を道徳科の授業にも活用する。また、基礎的学力の定着を図るため、中学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、数学を習熟度別に少人数で実施し、単元テスト、振り返りシートを活用して、個別最適化した授業展開を行う。

**豊かな心・健やかな体の現状**  
 食育の取り組みや、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は1～9年生合同で行い、7～9年生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上をめざしながら1～9年生の「たてわり競技」を通して様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、1～9年生のたてわり活動である「さつき野トーク」を中心として異学年交流を充実させ、相手とつながり、関わることを通して自他のよさを認める機会を設定している。このように、小中一貫校の特徴を活かし、児童の豊かな心や健やかな体が育まれるように、活動の工夫をしている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方ははたかせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を働かせた授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
			特別の教科「道徳」や他の教科の授業において、他者と意見を交換し、議論し相手について考え、認め合うような授業にする。	児童生徒の肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
	基礎的学力	数学を習熟度別少人数授業で実施し、理解度を高める	習熟度別に少人数で実施することで、学力に合わせた個別最適化した授業展開を実施する。単元毎に単元テストを行い、自身の理解度を確認し、振り返りシートでどのように改善していくかを自己分析を行う	生徒の肯定評価80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末			
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	「あいログ」を1年間を通して活用し、相手意識が高まったか。	相手意識にかかわる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	2学期末			
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」を中心とした異学年交流を充実させ、自他の良さを認め合うことができるようにする。また、9年生は達成感や自己有用感を得られたか。	「さつき野トーク」についての項目 肯定評価80%	学校教育アンケート	2学期末			
			毎学期、学校生活アンケートと教育相談を実施し、留意すべき生徒には迅速に対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業をはじめとした体育的な教育活動を通して、運動への前向きな姿勢と意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	2学期末			
給食を通して食育を充実させ、生徒が自らの健康について考える力を育成する。食への興味関心が高まる取り組みを実施する。			「食」にかかわる項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	2学期末				
地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の活動を、地域の人間と連携して、子どもたちの9年間の成長に寄与する。	年間カリキュラムに「むかしあそび」などの地域と連携する項目を意図的に設定し、多様な他者とのかかわりを増やす。	親や教師以外の大人が自分と関わることにより、自分のためになったかの項目への肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			
		学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	2学期末			

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--